行って来ました！
南畑排水機場

新河岸川では、降雨等により洪水が起こり、この地域も度々浸水被害に見舞われてきました。新河岸川流域の水害について、低減の役割を担う南畑排水機場の見学と減災に向けた公開講座に今回参加し、治水対策の取り組みや富士見市における自助・共助・公助の取り組みについて学んできました。

（担当／野本巳智子、大澤敦子、表紀子、松下佳子、市川永樹、高野雄一）

南畑排水機場の生いたち

荒川と武蔵野台地に挟まれた低平地を流れる新河岸川は、降雨が溜まりやすい地形でした。そのため、昭和30年代後半から、流域の市街化が進みはじめたこともあり、たびたび洪水被害が生じていました。

昭和57年9月に本州を縦断した台風18号の影響で荒川上流域に大雨が降り、新河岸川流域の富士見市、志木市、朝霞市で浸水家屋92 85戸と大きな被害を受けました。

この災害で、国の激甚災害対策特別緊急事業の指定を受け、以前から計画されていた集中的な河川改修工事が実施されました。

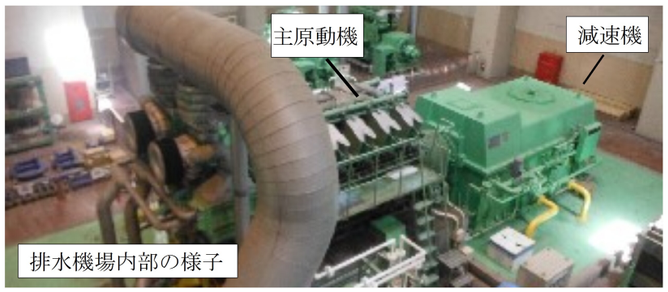
そこで、新河岸川流域の治水安全度を向上させるため、南畑排水機場は、新河岸川の水を荒川に排水する施設として1986（昭和61）年に完成しました。

南畑排水機場のスペック

増水時の新河岸川の水を、新河岸川放水路・びん沼調節池を経て、機場のポンプで荒川に強制的に排水します。

排水機場は荒川上流河川事務所が、放水路、調節池は埼玉県が施工した。

排水機場のポンプの排水能力は30立方メートル／秒×2台。直径3.6mの巨大な羽根車を回転させて1秒間にドラム缶300本分の排水を行います。



排水機場内部の様子

南畑排水機場の効果

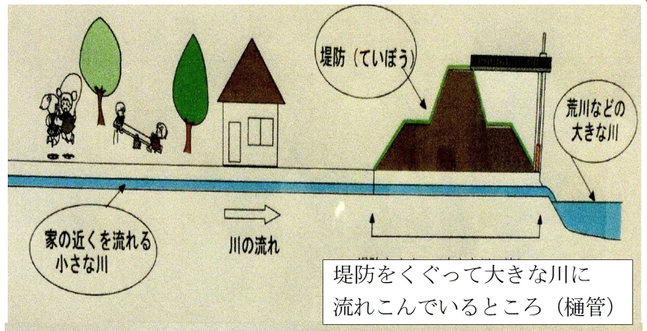
1999（平成11）年8月の豪雨（治水橋地点及び熊谷地点において、観測開始以来最高の水位を記録）において、南畑排水機場は2台のポンプを延べ75時間稼働したことで放水路分岐地点で最大約0.8mの水位が低減し、浸水被害の軽減に効果を上げたものと考えられます。

発電機

排水機場の役割

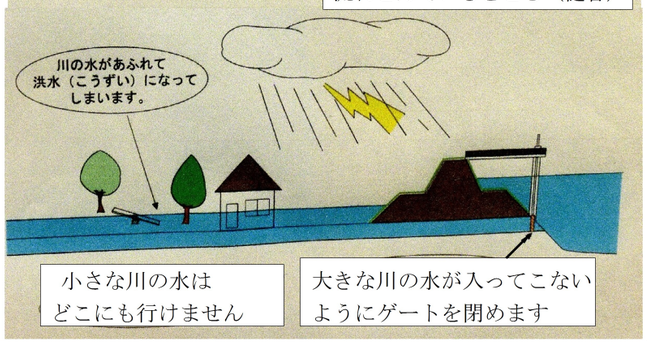
天気のいい日は

家の近くを流れている小さな川は、普段は大きな川よりも高いところを流れています。そのため自然に流れていくことができます。



大雨が降ると

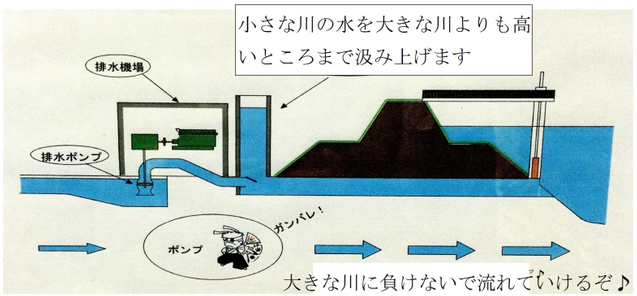
大きな川の水は、堤防と同じくらいの高さにまでなります。そのため、ゲートを閉めて水が入ってこないようにするんですが、こんどは小さな川の出口がなくなってしまいます。



そうです

排水機場の出番です！

排水機場は、ポンプの力で小さな川の水を大きな川より高いところまで汲み上げ、こうして、雨の日でもみなさんが安心して暮らせる努力をしています。



自助のすすめ

自助（自分の身は自分で守る）

共助（自分たちの住んでいる地域は自分たちで守る）

公助（市区町村、都道府県、国、消防、警察、自衛隊、消防団など）

★ローリングストックによる備蓄のすすめ

①いつもより多く食料を買っておく

②普段通り古いものから食べる

③食べた分を買い足して補充する

★自発的な情報収集

①防災行政無線

②テレビ

③インターネット

④スマートフォンアプリの活用

放送が聞き取れなかった場合、電話で内容を確認できます。

TEL049-265-3030

（電話応答サービス）

取材を終えて

近年、ゲリラ豪雨や洪水被害のニュースを頻繁に見聞きするようになった。しかし、どこか他人事ととらえ自分に置き換えて考える事がなかった。

今回の取材で南畑も新河岸川流域に含まれ、浸水想定区域に入っている事、そしてこの排水機場に守られていることを知った。ただ守られているだけではなく、私達自身も情報収集など普段から関心を持つことが大切だと改めて思った。

取材協力

＊国土交通省関東地方整備局荒川上流河川事務所

＊富士見市安心安全課